



## 委員会等活動成果

### 国際関係委員会 欧州調査部会

#### “The Actuary”の記事紹介

##### Pick Up

英国アクチュアリー会月刊誌「The Actuary」2005年1・2月号から

2005年2月18日

#### アクチュアリー、モーリス氏へのインタビューを実施 Morris identifies clear choice for actuarial profession

英国における、モーリス・レビューをめぐる動きに関しては、The Actuaryで頻繁に取り上げられ、小欄でも、特に興味深い記事について紹介して来た（2004年8月分、2004年12月分をご参照いただきたい）。モーリス・レビューに関しては、昨年末に、中間報告書（Interim assessment）が発表されており、アクチュアリーに対する多岐にわたる批判を伴う内容となっている。これを受け、The Actuary誌では、モーリス氏へのインタビューを実施すると共に、中間報告書発表後にマスコミ各紙で取り上げられた、本問題に関する記事を掲載している。モーリス氏によるインタビューへのコメントおよび新聞記事の概要は以下のとおりである。

##### ■ モーリス氏へのインタビュー結果

インタビューの中で、モーリス氏は、英国アクチュアリー会に対し、将来進むべき道として「長期負債評価に関する限定的な役割に特化するか、あるいは、外部監査によるサポートを受けつつ、スキル向上を図った上で、幅広い業務領域に取り組むか、2つに1つである」と述べた。

また、「『アクチュアリー学専攻』を提供している大学と共同で、活発な活動を行うべきである」、「アクチュアリーを志す人材のうち、最終的に資格を獲得できる人が少数派であることに関心を持った」などと述べ、アクチュアリー会における教育・資格制度の改革の必要性を訴えている。

外部監査については、「財務報告審議会（Financial Reporting Council）が本件について検討してくれることに期待している」とコメントした。

最後に、「レビューでは、法令遵守徹底、業務内容調査、教育改革、独立監査導入という緊急課題を明らかにした。これらの変革の必要性は、多くのアクチュアリーに既に認識されており、短期間のうちに解決されることを強く期待している。」とまとめている。



## ■ マスコミ各紙の反応

マスコミ各紙の反応は、総じて、アクチュアリーに対し批判的となっている。一部を紹介すると、

－「バーナード・ショーは正しかった。全ての専門家は、素人にとって、陰謀者である。昨日公表された、ディレク・モーリス氏の間接報告書を信じる者にとっては、アクチュアリー会は、特に典型的な例だと言えよう。変革が遅く、不透明で、不十分にしか監査されていない、規制が緩い、顧客にとって十分には説明がなされない－アクチュアリー達への起訴状は、非常に長いものである。」(タイムズ紙)

－「アクチュアリーは、惑星のような大きさの頭脳を持っているかもしれないが、話題が生命表の最終年齢近くのことになると、彼らの問題発見能力が、言わば金融ジャーナリスト並であることが露呈された。」(デイリー・テレグラフ紙)

その他、フィナンシャル・タイムズ紙、インディペンデント紙なども本問題を扱っている。

なお、モーリス・レビューは、今回の中間報告書へのレスポンスを2005年2月4日まで受付けた上で、今春、最終報告書としてとりまとめられる予定である。

原文をお読みにになりたい方は英国アクチュアリー会のHPをご覧ください。

<http://www.the-actuary.org.uk/>

"MORRIS IDENTIFIES CLEAR CHOICE FOR ACTUARIAL PROFESSION"